

# J A 自己改革推進レポート（J A 鳥取中央） 11月号

## 1. 福高祭にブース地元産アピール

10月4日、倉吉市で開かれた「福高祭 2020～with コロナ新時代への挑戦」で直売所出荷者の野菜販売ブースを設け、地元産をアピールした。ブースではJ A間交流しているJ Aえひめ南のみかんジュースなども販売した。

福高祭は「復興から福高へ」をテーマに、2016年10月に発生した県中部地震からの復興を目的に地元商店街等が2017年から開催。

当J Aは生産者への支援と地元産新鮮野菜を食べて元気になってもらいたいとキャベツ、トマト、キュウリなど野菜の詰め合わせを500人にプレゼントした。栗原組合長は「顔の見える安全・安心な野菜を食べ、地域の人に元気になってほしい」と野菜を手渡した。



## 2. ブロッコリーゆるキャラ「ロコト」最優秀賞に決定

J A鳥取中央琴浦ブロッコリー生産部は10月6日、琴浦町で「琴浦ブロッコリーゆるキャラコンテスト2020」の表彰式を開いた。最優秀賞の同町立船上（ふなのえ）小学校6年の松田さんに表彰状と記念品を渡した。

コンテストは町内の主要特産物にメインキャラクターがないことや、他産地との差別化を図るために企画。町内の小・中学生を対象に、105通の応募から最優秀賞と優秀賞を決めた。

松田さんの作品「ロコト」は町の形をブロッコリーの茎に見立て、腕の力こぶが同部の活気を表している。松田さんは「琴浦町を盛り上げるキャラになって欲しい」と喜んだ。

今後、同部のマスコットキャラクターとして、情報発信やポスターなどで周知する。同部の寺岡生産部長は「選ばれた作品を生産部で育て、琴浦ブロッコリーの発展と地域振興につなげる」と話した。



### 3. 県のオリジナル品種米「星空舞」販売

10月8日、県のオリジナル品種米「星空舞」の令和2年産の販売をスタートした。

同日は倉吉市の直売所「旬鮮プラザ満菜館」で約140kgを入荷。「鳥取県の新しい品種の新米を楽しみにしていた」と買い求める来店客でにぎわった。

当JAでは587戸が338ヘクタールで栽培する食味の良さに加え耐暑性で1等米比率が高いのが特徴。令和元年産は95%を超える好成績となり、令和2年産では栽培する農家が増えた。

直売所には「すりたて工房」があり、精米したての今ざり米も販売する。



### 4. 第24回中部農業みらい宣言を実施！

10月26日、第24回目定例記者会見「中部農業みらい宣言」を開いた。SNSでの販売戦略第4弾として、特産の長芋「ねばりっこ」の活用方法とおいしさを「YouTube」を使い全国にPRしていくことを発信した。

主に料理投稿を配信している男性クリエイター（チャンネル登録数41.7万人）と女性クリエイター（チャンネル登録数7.7万人）による動画2本立てとし、どちらも11月下旬に投稿予定。男性クリエイターが紹介するレシピに

ついては、チラシを作成し店頭で配布を予定している。

栗原組合長は「ねばりっこでもSNSとチラシを併用することで店舗での購買意欲の向上、家庭需要の増大を促すとともにネット販売への誘導につなげていく」と意気込みを話した。

